

悠久

第 41 号



台北 保安宮

本号の内容

- | | | | |
|---------------------------|---------------|----------|---------|
| ① 日 中 教 育 交 流 に 思 う | 岡山県日中教育交流協議会 | 会 長 | 門 野 八洲雄 |
| ② 「岡山県江西省高校生相互派遣」引率記 | 岡 山 学 芸 館 高 校 | 国際交流センター | 中 嶋 教 之 |
| ③ 南京・三江学院の日本語教師を終える今、思うこと | | | 曾 田 和 子 |
| ④ 日本国政府と中華人民共和国政府の共同声明 | | | |
| ⑤ 協議会事務局からのお知らせ | | | |

July
2013

日中教育交流に思う



岡山県日中教育交流協議会 会長

門 野 八 洲 雄

皆様方には、日頃より日中教育交流協議会の諸活動に、ご理解やご協力、ご支援をいただき、心よりお礼を申し上げます。

当協議会では、岡山と中国との教育交流や青少年の交流を促進し、様々な活動を通して次代を担う青少年を育成し、日中友好の発展を図るということをねらいに平成十一年三月に設立され、本年で十四年を経過したところであります。設立当初は、旭川荘の江草安彦名誉理事長さんや森崎岩之助元会長さんなどが中心になって設立に尽力され、多くの賛同者や団体の支援を得て、会報「悠久」の発行や中国教育事情調査団の派遣、日本と中国の学校との交流の橋渡しなどに取り組み、その後、高校生の相互交流事業「日中青年交流事業」にも取り組んできています。

ところが、昨年九月に日本が沖縄の尖閣諸島を国有化して以来、これまで友好関係を進めてきた日中関係に大きな変化が生じてきています。私たちの高校生相互交流事業にも影響が出てきており、昨年は岡山から中国への派遣は当初の計画通り実施できましたが、中国の高校生の岡山への受け入れについては、直前になって中止せざるを得なくなったという連絡が届き実現できませんでした。大変残念に思います。

日本と中国とは、古い時代から交流を重ねてきました。両国間の関係の早期の改善が望まれます。社会や経済がグローバル化してきている現在ですが、今後はこうしたグローバル化が一層進むことでしょう。各国が相互に連携し、お互いがお互いを理解し合い、共生していく関係が不可欠です。

私たちは、隣国である中国との高校生交流を本年も推進していくために、四月に、私と事務局長とで中国大連の交流校を訪問し、今後の在り方等について意見交換をしてきました。

高校生交流の意義については、相手校も大いに認めており、「本年も実施していきたいでしょう。岡山からの訪問を今まで通り歓迎します。私たちも秋には、岡山を訪問できるようにしよう。」とのことでした。

国レベルでの関係改善は、もう少し時間がかかると思われませんが、民間レベルでの可能な取組は進めていくべきだと考えます。私たちは、若い世代の高校生に、海外の状況を自分たちの目で見て、肌で感じていくべきだと考えます。私たちは、同じ世代の若者同士で率直な意見交換をするなどして視野を広げ、今後の自分たちの生き方を考えていく一つの契機としていくことを願っています。こうした取組をより有意義なものになるよう改善を図りながら、積み重ねていきたいと考えています。



「岡山県江西省高校生相互派遣」引率記

岡山学芸館高校

国際教育センター 中嶋教之

二〇一二年八月、「岡山県江西省高校生相互派遣」の引率者として中国江西省を訪問する機会をいただいた。これは、岡山県と中国江西省の姉妹都市締結二十周年の記念行事として、高校生を相互に派遣して友誼を深めようというもので、何かと話題の近くて遠い隣国を若い人に知ってもらうのいい機会だと思った。が、まさか自分が引率の指名を受けるとは思ってもみなかった。さらにいえば、私の勤める岡山学芸館高等学校の森美智子参与が二十年前に江西省の訪問団に加わっており、今度は同じく岡山学芸館高等学校の私に訪問の機会が巡ってきたというのは、何らかの縁を感じずにはいられない。今回参加したのは一宮高校の女子五名、芳泉高校の男子一名と女子三名、本校からは男子二名と女子四名。女子が多数を占めたのは意外だった。この「岡山県江西省高校生相互派遣」では江西省のほか上海にも立ち寄り日系企業を訪問したが、今回は江西省での活動に絞って報告させていただく。

実を言うと、(私の記憶が確かなら)一九九五年に江西省の廬山と南昌に行ったことがある。当時、中国の北京に留学していた私は、冬休みに一人で漢口へ行き、そこから船で九江へと移動。そして廬山へ登って南昌へ下り、そこから北京へと戻った。新幹線なんてない時代のことである。鉄道のチケットは今のようコンピューターでの発券ではなかった。駅によっては外国人窓口があり、多少は手に入れやすかったが、地方の駅では朝から並んでもチケットが手に入らないことが多い。そんな時代、よく

も十日間程度で戻ってこれたものだと思う。あれから十七年。江西省がどう変わったのか、この目で確かめたいと思った。

八月三日朝、岡山空港に集合し、高校生十五人と引率の三人(私のほか岡山県国際課の門口さん、同じく白さん)そしてツアーコンダクターの藤田さんの十九人は中国東方航空機に乗り込み、最初の目的地の上海を目指した。出発の前日に台風が接近しており、この日は晴れたものの気流の状態が悪く、特に上海着陸の直前、飛行機は揺れに揺れた。そして突然ストーンと急降下。機内からは悲鳴が聞こえた。何度も飛行機に乗っている私も、もうだめだと思った。しかし、飛行機は何とか踏ん張り、無事に着陸。かと思いきや、今度は着地して減速中の飛行機を突風が吹く。機体がなんとなく右へ流されているのを感じた。ああ、今度こそ終わるか、と思ったが、目の前の私の行ないが良いせい(どうかはわからないが)何とか無事に停止し、十九人は晴れて中国上海浦東空港に到着した。しかし、道はまだ遠い。「しばらくは飛行機、乗りたくない・・・」と誰もが思ったろうが、江西省南昌へはさらに飛行機で二時間かかる。

上海からの飛行機はいたって順調で、大した揺れを感じることもなく、快適に移動することが出来た。南昌の昌北空港に着陸する直前、南昌の町が見えた。ことのほか大きい気がした。以前来たときとイメージが違う。以前は、なんとなく古めかしい建物が多く、高いビルでも階程度だった気がする。しかしどうだろう。今見る南昌の町は、上海などと同じように結構新しい高層ビルも少なくない。あれ?これ本当に南昌?半信半疑だった。

南昌に到着した一行は、南昌第二中学の万副校長そして江西省僑弁室の曾さんの出迎えを受け、ホテルへと向かった。道中、南昌市内を走ったのだが、一七年前の記憶など、どこにも落ちていない。荷物を置き、続けて騰王閣と向かう。騰王閣に来て、やっと少しだけ記憶がよみがえってきた。そう、一七年前にも来た。当時、川べりに一つだけ大きく威厳のある建築物があった。それが騰王閣だったが、今は周りに幾つもの高層ビルが立ち並び一七年のときの流れを感じさせた。騰王閣の中に入る。そして中でもまた、昔の記憶が蘇った。騰王閣は外観は威厳ある中国の古代建築に様式だが、実は近代になって再建されたコンクリートの現代建築なのだ。一七年前、「なんだよ、金払って中に入った価値があったのかな」と少々納得できなかった。今回はただ、一七年前の再訪を、ただただ懐かしく感じた。

騰王閣を見学した後、一行はホテルに戻り、江西省僑弁室主催の歓迎会、つまり食事に招待された。江西省の料理は辛い。私はとても辛いのは別として、ごく一般的な辛い料理であれば、ありがたくおいしく頂戴するが、高校生には辛すぎたようだ。おいしいということは理解できたらしいが、とにかく出てくるものが出てくるもの、全てが辛い。結果、少しだけ食べてほとんどを残してしまうこととなったが、ホストはそれでも辛くないように気をつけてくださっていたそうだ。それと、高校生たちは、

中国ではお客様に熱い料理を提供するのが最高のもてなしであり、料理が出来次第、次から次へと出てくるということ（事前学習していたのだが）理解しておらず、最初のうちにたくさん食べてしまい、後から後から出てくる料理が食べたくてもおなかに入らなかったというのも事実だ。次回参加する高校生はこの点に注意してくれば、様々な料理を楽しめるし、ホストも食べっぷりに喜んでいただけと思う。

翌四日は地元南昌第二中学を訪問。夏季休業中なので、校長先生、副校長先生の他、ホームステイを受け入れてくれる生徒のみで、歓迎式が行われた。南昌第二中学の生徒によるダンス、楽器演奏、書道披露が行われた後、日本の生徒からはそれぞれが準備した日本の高校生活の様子を学校ごとに紹介した。その後、学校内を案内してもらったのだが、夏季休業中なので、他に誰もいない。仕方がないのだが、今後交流活動をする際、この点は再検討してもらいたいと思った。受け入れるほうにしてみたら、授業その他の活動に影響のない夏季休業中に交流することは非常に好都合ではあるが、せっかくなら全校生徒が揃っているときに交流したほうがより相互理解につながるし、全校中国の規模の大きさを体で感じられるのではないだろうか。

この日の夜、高校生たちは南昌第二中学の生徒の家庭にホームステイさせてもらった。それぞれの家庭で手料理を味わったり、または外食で本場の中華料理を楽しんだり、と、さまざまな経験をさせていたのだと思う。印象的だったのは翌朝、南昌第

二中学で集合した時にあるホストのお母さんが「〇〇さんは日本人の誇りです！なんていい子なんでしょう！」と本当に泣いて別れを惜しんでいたこと。見ていて、「ああ、連れてきてよかったー」と心から感じた。

五日はバスで廬山へと移動した。前述したように、私は一七年前にも廬山に来たことがある。町と違い、廬山は一七年前も今とそんなに変わっていないと思う。その廬山に私の記憶が残っているのか、バスの中から密かに期待していた。以前訪れたのは冬、たしか一月だったと記憶している。私が九江へ着く前日、雪が降ったようで、廬山までの道中が木という木が山形県は蔵王の樹氷のように凍っていた。あまりの美しさに絶句したのを覚えている。たとえ絶句しなかったとしても寂しい一人旅だから、結局何も話さなかったらうけど。

話をもどそう。お昼前、廬山にある町、牯嶺に到着。以前来た時は一面真っ白の雪景色だったが、今回は緑一面（とまではいかないが）の夏模様。なんとなくが以前来たときとさほど変わっていない気がした。到着後、すぐに昼食をとり、その後宿泊するホテルにチェックインをしに行った。宿泊するホテルは廬山賓館。なんとこのホテルは私が一七年前にも泊まったところだった。一七年前に泊まったときは真冬で私以外の観光客はおらず、ただただ殺風景で廬山賓館全体が無駄に大きい印象を受けたが、あれから一七年たった今、感じたことは「意外と小さかったんだ」。

荷物を置き、その後休むまもなく廬山観光へと出かけた。まずは廬山博物館。ここ

は以前、毛沢東さんの別荘だったそうだが、その辺の話にしても高校生にはかなり「？」な話である。それはそうだが。中国の高校生に「ここは田中角栄さんの旧居ですよ」といつてもピンとこないだろう。博物館は、ただ単に博物館として見学するなら有意義な存在だと思った。そして、博物館の次は廬山ハイキングとなる。中国有数の避暑地である廬山だけあって、かなりの人がハイキングを楽しんでいた。一七年前の冬とはまったく様子が違う。散歩とか、とにかく歩くことが好きな私は心の底から廬山ハイキングを楽しめたのだが、高校生たちはどうだったであろうか。顔色を見る限り「疲れた・・・」という感想だったのではない

か。何人かはスニーカーではなくサンダルを履いており、足を痛めてしまった生徒もいたが、海外旅行の際は、とにかく履きなれたスニーカーを持つてくるといいと思う。

この日の夕食は廬山賓館内のレストランでとる。中国へ出発する前に「中国は何でも食べるよ。蛙とか蛇とか」と知らされていたある女子生徒から、「先生、蛙はいんですか？」というリクエストがあった。早速、通訳の曾さんにその旨を伝える。廬山では「石鶏」と呼ばれる蛙が名物で、すぐに追加注文してくれた。岡山県の門口さんはゲテモノ（本人のお言葉）がまったくだめとのことで、とてもおいしい石鶏を一口たりとも食べようとしなかったのはとても残念だった。高校生はというと、一部の生徒を除き皆おいしくいただいた。ただ、芳泉高校の男子生徒が食べようとしたとき、蛙ちゃんと目と目が合ってしまったら

しく、悲鳴を上げていたのは（不謹慎ですが）笑ってしまった。

食事の後、生徒たちは知らなかっただろうが私にとって地獄のような二時間が待っていた。酒である。私は飲めるほうではないので、極力酒の席を避けてきたのだが、今回ばかりはそういうわけにはいかなかった。県の門口さんも飲めず、白さんも飲めないという。仕方なく私が付き合うことになったのだが、その飲み方が尋常ではない。いや、飲み方というよりも酒の度数の問題である。うちの軽自動車に入れても問題なさそうな酒を（少しずつだが）飲み続けるのだ。もしも引率等で中国に行かれる先生方、はつきりと「飲めません」宣言をし、できたら医師の診断書を持っていかれたほうがいいと思う。

翌朝は廬山で初めての朝であり、江西省最後の朝であったが、いかにも避暑地らしい清涼しい朝であった。これから廬山を、江西省を離れるのが名残惜しく感じた。この後一行は上海へ移動し、さらに一泊して帰国となるのだが、江西省での活動だけを総括すると、「大満足」の一言になるのではないだろうか。交流あり、料理あり、登山ありで短い時間でさまざまな体験ができ、引率の私も満足だったのだから、生徒たちはもっと満足したのではないかと思う。しかし、「岡山県江西省高校生相互派遣」なのだから、もう少し交流活動に時間をかけてもよかったのではないかと思う。いずれにせよ、最初からすべてうまくいくわけではない。次回はずっとよくなるように願いつつ結びとしたい。

南京・三江学院の 日本語教師を終える今、思うこと

曾田和子

今夏、九年過ごした南京を引き揚げることにした。これまで年に三、四回岡山、南京を往來するのにごく当たり前に飛行機を使ったが、今回、私ひとり船便で帰ろうと思って手配した。上海―神戸を週一回航行する「新鑑真号」である。土曜の昼、上海出港、あいだ一日はさみ、三日目の朝九時過ぎに神戸到着、というクルーザー船である。この七、八月は南京―関空の飛行機の運航再開が決まっているがそれ以後は未定である。夫はこの往復便を使って帰国する。彼は八月末にまた、南京入りの予定である。ここ半年以上、南京と大阪を結ぶ直行便はなかった。現在の中日関係の余波のひとつである。

私の南京暮らしは、遠因ではあるが、両親に対する軽いとは言えない後悔の気持ちから始まっている。北京に行きたかったが、その伝手が当時無く、南京に來た。後悔は全くない。

私の両親は旧満鉄職員。昭和十六年職場結婚。十八年、私は北京市西郊区万寿路で生まれた。昭和二十一年一月六日退去命令を受け、昭和二十一年三月十七日 塘沽港出港。船名は「LST十一」、戦車揚陸艦である。本土上陸は昭和二十一年三月二十二日、山口県仙崎港に。こ

の引揚途中で、私は弟（昭和二十年十月二十五日生、昭和二十一年二月十日没）を喪った。北京から天津の貨物廠に行くのに、無蓋車（貨物車）に乗ってすぐ、母は背中の子を下したが、その時既に窒息死していた。弟の遺体と共にそのまま天津へ。貨物廠に着くと、廠内には何本もの木の墓標があり、弟もそこに土葬された。わずか百日の生涯であった。

たった、これだけのことを年月日まで正確に知ったのは、両親の没後であり、母の妹からの聞き取りである。彼女は広島的女学校卒業後すぐ、北京で就職したが、一年ほどで敗戦、「北京のいい思い出はない」と言っている。しかし、原爆の難は逃れた。

引き揚げ後にうまれた二人の弟妹ともども三人の子を育てた父母の戦後の苦労を、私は、見ている。「サラリーマン暮らしはもうこりごり」と言って、慣れぬ自営業を営んだ父、その父が近所の人の勧めで町会議員に出ようかというとき、猛烈に母は反対した。弟を喪ったとき、父は引き揚げの責任者として奔走し、母の側にいなかったから、わが子の異変に気付かなかった。いつも家族の傍らにいてほしい、というのが反対理由であった。父は何かにつ

けて、このことで母に責められていたようだ。我が家の戦後はいつ終わったのだろうか。

かつての北京暮らしの豊かさは語っても、戦争推進勢力に加担する側にいたことへの反省がほとんどない両親に、私は食ってかかったり、反論してばかりいた。彼らに北京時代を娘に語ろうという気は失せていたであろう。私の悔いはこれである。

私は、退職したら、病気がちな老いた両親の介護をしながら、ゆっくりと聞き取りをしようと思っていた。しかし、できると思ったのは、私の側のことで、彼らは私を待たなかった。母は、私の退職の前年に突然没した。父に死に遅れること十年。父と母の年齢差は十歳だった、律義なことだと思った。

二〇〇四年三月、金川高校を最後に岡山県での教師生活を終えた。学区撤廃として、岡山市内の総合選抜校が三校から、五校になるにつれ



て、市内の受け皿的なこの学校の教育の困難さは増していった。いま、二十三年間在籍した金川も私の知る学校ではなくなった。異なる学校になるということで、百年を越す学校図書館の書籍もすべて廃棄となった。平成十九年度末、廃校となった福渡の廃棄図書、そしてこの金川の廃棄図書の一部は、三江学院に來ている。よい伝手を得て、県立図書館からも、重複する不要な図書を譲り受け、これら合わせて三千冊ほどが三江学院に來て、日本語を学習する中国人学生の利用を待っている。

二〇〇四年八月末、南京市の郊外にある三江学院の日本語教師として勤務を始めた。安全な住まいの提供と、日本円を持ち出さなくても生活



できる程度の給与が与えられれば、というのが私の条件だった。以来、九年間もこの大学でお世話になった。大変ありがたいことであつた。

そしてなにより、授業を熱心に受ける学生に私は感動し、感謝した。

高校生より二、三歳上の本学の学生は、入試に失敗したと言い、国立に比して成績は低いのが、かれらの自己肯定感は強く、立ち直りも早い。雑多な担任業務の担当者は別に居るので、私たちはほぼ教科指導一本でいける。教材研究の時間たつぷり、昼食休憩時間は正午から二時まで。子育て途中の若い女教師は、近くの住まいに帰って、昼食、授乳も可能である。職場と住宅に近い人が多い。

私の担当は、日本文学史と作品鑑賞が中心で、他に作文や、聴解、会話の授業を持つこともあった。四年生の作品鑑賞については、写真のようないくつかの教科書を作成したことで、教材準備がとて楽になった。大学が予算をつけて、テキスト作りを許可してくれたのだ。編集は私に任せられた。中国人に日本文学作品の何を読んでもらうか、考えた。漱石、鴎外、芥川、志賀、川端などの作品は勿論入れたが、『蟹工船』、『野火』、『黒い雨』、そして戯曲は『夕鶴』以外に、宮本研の戯曲『花いちもんめ』を入れた。この四作品は約五年

続けた。あの戦争準備時期、フィリピン戦線の無残な日軍兵士たち、無謀な戦争の結果としての原爆、そして中国残留孤児のテーマである。しかし、原爆を取り上げることができたのはやっと、この三年である。

侵略戦争を認めようとせず、戦後賠償もしたがない政府を持つ国の民として、この南京で原爆を取り上げる勇気が出なかった。ところが三年ほど前、北京市の若い中国人教師がおこなつた、原爆は必要であつたか、というテーマの授業実践が日本で報告され、この授業によって、原爆投下を肯定していた子どもたちの考えに変化が見られたという朝日新聞の記事が、私のところに届いた。この若い男性教師は、最後に、中国は核保有国に囲まれている、核兵器の問題を考えていくことは中国にとつても大切なことだとも言っていた。背を押してもらつたような気がした。私は広島の前爆を中国人学生に提示した。

『黒い雨』は八月六日の部分だけで、今村昌平の映画の一部鑑賞、そしてこのテキストに参考資料として載せた、大江健三郎が一九九四年十一月福山市で「井伏鱒二さんを偲ぶ会」で話した「井伏さんの祈りとリアリズム」を取り上げた。私たちは庶民は歴史を決して忘れてはいけな

い、という内容であつた。メッセージがどれだけ届いたかは不明である。自己満足かもしれない。ただ、私の強い気持ちがあつても感じられなければ、十分である。

新鑑真号は、六十七年前、父母、叔母と私が引き揚げで乗ったLSTに比べれば小さいが、乗り心地もいいであろし、速度もはるかに速く、航路も違う。でも、今回は、海上を四十六時間かけて日本へ帰りたい。



日本国政府と

中華人民共和国政府の共同声明

日中友好資料

日本と中国の国交が回復して本年は四十一年目になります。一九七二年九月、日中両国首脳が北京で会談し、友好への思いと英知を結集し、さまざまな問題や課題を克服して国交正常化に向けた条文が発せられました。それが「日中共同声明」です。今日の日中友好関係の基礎となり原点となったこの声明文を全文掲載しました。皆様の学習の材料にしてください（事務局）

日本国内閣総理大臣田中角栄は、中華人民共和国国務院総理周恩来の招きにより、千九百七十二年九月二十五日から九月三十日まで、中華人民共和国を訪問した。田中総理大臣には大平正芳外務大臣、二階堂進内閣官房長官その他の政府職員が随行した。

毛沢東主席は、九月二十七日に田中角栄総理大臣と会見した。双方は、真剣かつ友好的な話し合いを行った。

田中総理大臣及び大平外務大臣と周恩来総理及び姬鵬飛外交部長は、日中両国間の国交正常化問題をはじめとする両国間の諸問題及び双方が関心を有するその他の諸問題について、終始、友好的な雰囲気の中で真剣かつ率直に意見を交換し、次の両政府の共同声明を発出することに合意した。

日中両国は、一衣帯水の間に隣国で

あり、長い伝統的友好の歴史を有する。両国民は、両国間にこれまで存在していた不正常な状態に終止符を打つことを切望している。戦争状態の終結と日中国交の正常化という両国民の願望の実現は、両国関係の歴史に新たな一頁を開くこととなる。

日本側は、過去において日本国が戦争を通じて中国国民に重大な損害を与えたことについての責任を痛感し、深く反省する。また、日本側は、中華人民共和国政府が提起した「復交三原則」を十分理解する立場に立つて国交正常化の実現をはかるという見解を再確認する。中国側は、これを歓迎するものである。

日中両国間には社会制度の相違があるにもかかわらず、両国は、平和友好関係を樹立すべきであり、また、樹立することが可

能である。両国間の国交を正常化し、相互に善隣友好関係を発展させることは、両国民の利益に合致するところであり、また、アジアにおける緊張緩和と世界の平和に貢献するものである。

一、日本国と中華人民共和国との間のこれまでの不正常な状態は、この共同声明が発出される日に終了する。

二、日本国政府は、中華人民共和国政府が中国の唯一の合法政府であることを承認する。

三、中華人民共和国政府は、台湾が中華人民共和国の領土の不可分の一部であることを重ねて表明する。日本国政府は、この中華人民共和国政府の立場を十分理解し、尊重し、ポツダム宣言第八項に基づく立場を堅持する。

四、日本国政府及び中華人民共和国政府は、千九百七十二年九月二十九日から外交関係を樹立することを決定した。

両政府は、国際法及び国際慣行に従い、それぞれの首都における他方の大使館の設置及びその任務遂行のために必要なすべての措置をとり、また、できるだけすみやかに大使を交換することを決定した。

五、中華人民共和国政府は、中日両国民の友好のために、日本国に対する戦争賠償の請求を放棄することを宣言する。

六、日本国政府及び中華人民共和国政府

は、主権及び領土保全の相互尊重、相互不可侵、内政に対する相互不干渉、平等及び互恵並びに平和共存の諸原則の基礎の上に両国間の恒久的な平和友好関係を確立することに合意する。

両政府は、右の諸原則及び国際連合憲章の原則に基づき、日本国及び中国が、相互の関係において、すべての紛争を平和的手段により解決し、武力又は武力による威嚇に訴えないことを確認する。

七、日中両国間の国交正常化は、第三国に対するものではない。両国のいづれも、アジア・太平洋地域において覇権を求めるときではなく、このような覇権を確立しようとする他のいかなる国あるいは国の集団による試みにも反対する。

八、日本国政府及び中華人民共和国政府は、両国間の平和友好関係を強固にし、発展させるため、平和友好条約の締結を目的として、交渉を行うことに合意した。

九、日本国政府及び中華人民共和国政府は、両国間の関係を一層発展させ、人的往来を拡大するため、必要に応じ、また、既存の民間取決めをも考慮しつつ、貿易、海運、航空、漁業等の事項に関する協定の締結を目的として、交渉を行うことに合意した。

千九百七十二年九月二十九日に北京で
日本国内閣総理大臣 田中角栄（署名）
日本国外務大臣 大平正芳（署名）
中華人民共和国国務院総理

周恩来（署名）

中華人民共和国 外交部長

姬鵬飛（署名）

協議会事務局からのお知らせ

5月26日（日曜日）午後1時半より岡山県生涯学習センターにて平成25年度岡山県日中教育交流協議会総会・理事会が開催されました。冒頭、門野八洲雄会長が挨拶し、昨年度の活動を総括し、本年度の抱負をのべました。特に、昨年度中国への訪問は実現したが、訪日が出来なかった日中高校生交流について、本年度引き続き実施するとの抱負が述べられました。当日は、役員、会員ら20名が集まり、平成24年度活動報告収支報告、監査報告がされ、了承されました。また新年度役員選出について、下記の通り新役員が選出されました。引き続き、平成25年度方針案並びに予算案が提案され満場一致で了承されました。（事務局）

岡山県日中教育交流協議会 平成25年度 役員

役 職	氏 名	所 属
参 与	中 島 博	岡山県経済団体連絡協議会 座長
	岡 崎 彬	岡山県商工会議所連合会 会長
	加 計 孝太郎	学校法人加計学園 理事長
	片 山 浩 子	NPO法人岡山市日中友好協会 会長
	末 光 茂	社会福祉法人旭川荘 理事長
顧 問	竹 井 千 庫	岡山県教育委員会 教育長
	福 武 總一郎	公益財団法人福武教育文化振興財団 理事長
名 誉 会 長	江 草 安 彦	川崎医療福祉大学 名誉学長
特 別 顧 問	森 崎 岩之助	元岡山県日中教育交流協議会 会長
	黒 瀬 定 生	岡山県日中懇話会 会長
	岡 田 浩 明	旭川荘厚生専門学院 学院長
会 長	門 野 八洲雄	元岡山県生涯学習センター 所長
副 会 長	井 上 正 義	岡山県都市教育長協議会 会長
	森 靖 喜	岡山県私学協会 会長
	曾 田 佳代子	岡山大学教師教育開発センター 特任教授
	岡 本 啓	岡山県生涯学習センター 所長
理 事	有 本 明 彦	岡山県教育庁義務教育課 課長
	近 藤 治	岡山県教育庁高校教育課 課長
	屋 敷 欣 一	岡山県町村教育長会 代表
	藤 谷 幸 弘	岡山県PTA連合会 会長
	武 田 浩 一	岡山県高等学校PTA連合会 会長
	大 塚 正 嗣	岡山県高等学校長協会 会長
	小坂田 知 生	岡山県特別支援学校長会 会長
	池 田 智 則	岡山県中学校長会 会長
	小 川 孝 司	岡山県小学校長会 会長
	太 田 茂 樹	岡山県高等学校文化連盟 会長
	鳥 居 恭 治	岡山県国際理解教育研究会 会長
	板 野 美佐子	日中医療福祉研修センター 所長
	大 川 泰 栄	岡山市立上道中学校 校長
（事務局長）	松 井 三 平	岡山市日中友好協会 理事
監 事	大 橋 典 晶	中国短期大学 准教授
	赤 松 康 弘	日本教育公務員弘済会岡山支部 参事

「夢」を実現できる40年の伝統校

旭川荘厚生専門学院

＜旭川キャンパス＞

児童福祉科
(保育コース・幼保コース)

第1看護科

〒703-8560 岡山市北区祇園866
電話 (086) 275-6846・FAX (086) 275-0018

＜吉井川キャンパス＞

介護福祉科

精神保健福祉

〒704-8126 岡山市東区西大寺浜610
電話 (086) 944-6911・FAX (086) 944-6922

<http://asahigawasou.ac.jp/gakuin/>



岡山商科大学孔子学院

21世紀はアジアの時代、中国語を学ぶ絶好のチャンスです。
中国政府認定講師による中国語講座開催中!

☆HSK3級合格を目指す長期生コース
15週学習を通じて、HSK試験(中国語能力認定試験)3級合格を目指します!
※会社や団体への出張講座、子供向けコース・太極拳コースも開講中!

・お問い合わせ／お申し込みは

岡山商科大学孔子学院 〒700-8601
岡山市北区津島京町2丁目10-1
TEL 086-252-0642(内線521) FAX 086-255-6947
<http://www.osu.ac.jp/koushi/>

新HSK試験5級をめざす

長期生コース

中国語講座(2013年度前期)
(2013年4月～2013年9月)

子供向けコース(全15回)
毎週土曜日(11:00～12:00)

太極拳コース
毎週木曜日(14:00～15:00)



学校法人 中国学園

中国学園大学

●現代生活学部人間栄養学科 ●子ども学部子ども学科 ●大学院(現代生活学研究科)
子ども学研究科)

中国短期大学

●総合生活学科 ●保育学科 ●英語コミュニケーション学科
●情報ビジネス学科 ●専攻科(介護福祉専攻)

〒701-0197 岡山市北区庭瀬83番地 TEL086-293-1100 FAX086-293-3993
<http://www.cjc.ac.jp/> E-mail t-bosyu@cjc.ac.jp

学校法人 加計学園

岡山理科大学附属中学校

ひとりひとりの能力を最大限に引き出し、伸ばすとともに、自ら学び自ら考える人間を育てる。

- スーパー選抜クラス：東大・京大・国立大学医学部等の難関大学への進学を目指します。
- 選抜クラス：国立大学・私立大学への進学を目指します。

〒700-0005 岡山市北区理大町1-1
岡山理科大学附属中学・高等学校 中高入試広報課
TEL (086) 256-8527 FAX (086) 256-8526

愛され続ける価値がある。

kanko®



共感から感動へ。
ここに響くユニフォーム。

ozakiは、(財)全国高等学校体育連盟を通じて学校に係わる体育・スポーツ活動をサポートしています。
(公財)日本中学校体育連盟



(財)全国高等学校体育連盟協賛
インターハイ協賛



(公財)日本中学校体育連盟推薦
(公財)日本中学校体育連盟シンボルマーク付

尾崎商事株式会社 岡山営業所

〒701-0206 岡山県岡山市南区山田2316-28
TEL 086(292)8255 FAX 086(292)8266

kanko®
カンコースクールウェア
カンコースポーツウェア

ELLE

MICHEL KLEIN

Sprinter

Reebok

尾崎商事株式会社

本社 〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町15番1号 岡山リットシティビル5F

ozaki お客様相談室 **0120-712983**

9:00~17:30 / ただし土・日・祝日は除きます。(携帯・PHSからもご利用頂けます。)

<http://ozaki.jp/>



JQA-QMS119
JQA-EMO093
尾崎商事株式会社



10150091(03)
ISO 9001:2008

赤ちゃんからお年寄りまで
一人ひとりの「よく生きる」のために。



事業領域

国内教育、海外教育、生活、シニア・介護、
語学・グローバル人材教育

くわしくはホームページをご覧ください。

<http://www.benesse-hd.co.jp/>

株式会社ベネッセホールディングス

岡山本社 〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-7-17
東京本部 〒206-0033 東京都多摩市落合1-34

Benesseは、ラテン語の「Bene(よく)」と「esse(生きる)」を一語にした造語です。

眼鏡医療技術専門学校 ワールドオプティカルカレッジ

今年も全員就職が内定しました！

天職が見つかる「学校説明会」



5月25日(土)
6月22日(土)
7月13日(土)
7月25日(木)
13:30~16:30

ご予約は 0120(88)8233へ

高校生も社会人の方も、是非私たちの学校を見に来て下さい

資料は無料配布 随時見学できます

本校独自の特待生制度 奨学金制度があります

高校卒業生コース (3年制)
短大卒業生コース (2年制)

〒703-8282岡山市中区平井6-6-11 <http://www.woc.ac.jp> E-mail woc@woc.ac.jp

中国語を話そう！

入門、初級、中級、上級、レベルに合わせて学びます。
見学歓迎！ご一報ください。

＜費用＞ 入学金…3,150円(消費税込)

☆協会会員・継続者は免除☆

受講料…31,500円(消費税込)／全24回

教材費…実費(2,000円～3,000円程度)

＜申込方法＞ 申込書と、受講費用を事務局へご持参またはご送付下さい。
費用は前納にて一括納入を原則とします。

《問合せ先》

岡山中国語センター(岡山市日中友好協会内)

〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階 TEL (086)225-5068

E-mail oknittyu@yahoo.co.jp <http://www.oka-rizhongyouxie.jp/>

グループレッスン、個人レッスンの
ご相談にも応じます。
どうぞお気軽に
お問い合わせください。



おかげさまで24周年！

アジア・コミュニケーションズはあなたのツアーデスク！

- 岡山台北定期便が就航(4/3～)
- 中国東方航空は、上海へ
- 大韓航空で韓国ソウルへ、仁川空港経由で中国各地へ！
- お得なパッケージツアー(上海・台北・大連・青島・など)
- 特徴あるこだわりのツアー
シルクロード、チベット、雲南、内蒙古など
皆様のご要望に沿った旅行企画をいたします。
安心の添乗員同行ツアーです
- 日中教育交流のサポート
企画から旅行実施、添乗までサポートします。

○お気軽にお問合せ下さい



株式会社アジア・コミュニケーションズ

ASIA.COM

観光庁長官登録旅行業第1816号 ◎JATA正会員 IATA公認

岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル4F(〒700-0902)

TEL (086) 231-0334 FAX (086) 222-7732

<http://www.asicom.co.jp> Eメール info@asicom.co.jp



岡山県日中教育交流協議会

岡山県日中教育交流協議会 会報 『悠久』 第41号

発行：平成25年7月

発行者：岡山県日中教育交流協議会 編集委員会

〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階

TEL (086) 225-5083 FAX (086) 225-5041

印刷所：旭総合印刷株式会社